

生きた学習教育の場の提供

各教育機関をはじめ、地域の方々から、福祉について子ども達に教えてほしいという要望があり、「今の福祉を伝える場」として教育体制を確立し、現在に至る。今では、中学・高校・専門学校・大学の定期的な介護実習の場として定着しており、年間延数としては450名を超えている。

社会福祉法人 **可部大文字会**

〒731-0202 広島県広島市安佐北区大林町162-2
TEL：082-818-6011/FAX：082-818-6066/E-Mail：yamamayu@urban.ne.jp

【法人の概要】

法人設立年：平成14年6月
経営施設、事業（数）：1施設、7事業
経営施設、事業（種別）：
特別養護老人ホーム…1 / 短期入所事業所…
1 / デイサービスセンター…1 / グループホーム…1 / 生活支援ハウス…1 / ヘルパーステーション…1 / 居宅介護支援事業所…1

【法人の理念・経営方針】

～「山まゆ糸」のような光輝く最高の人生を送られることを心から願って～

集団生活の中でもそれぞれの利用者様が各自に合った自由な生活が送れるよう、種々援助する。また、利用者様に孤独感が醸成されないよう、積極的な仲間作りを推進すると共に、その家族様の身体的、精神的負担の軽減を図る。

実施施設の概要

施設名：特別養護老人ホーム
施設種別：老人福祉施設
活動開始年：平成14年7月
活動の頻度・時間：月4回、1回あたり4時間
活動の対象者：中学生、高校生、専門学生、大学生等



活動実施の背景、実施にいたった理由

開設当初より、各教育機関をはじめ、地域の方々から、これからの超高齢社会を迎えるにあたり、教科書には載っていない、本当の福祉というものを直接現場にて、子供達に教えて欲しいという声をいただいていた。

また、当施設でも開設の際より、地域に開かれた施設として担う社会的責務として、これからの担う子供達へ、施設として何が出来るのだろうかと常に考えていた。

これらの双方の子供たちへの強い思いが開設当初より意気投合し、「今の福祉を伝える場」として確立し、現在に至る。

今では、中学、高校、専門学校、大学の定期的な介護実習に場として定着しており、年間延数としては約450名を超えている。

実施内容

学習者の対象や学習内容、学習時間を考慮し、学習、実習内容は、専門的な内容から、体験的な内容まで、事前の学校関係者との連携により、有効な時間にしていただけるようにしている。

定期的に実習の受け入れを行っている地元高校（2年）の家庭科の実習内容は次のとおりである。

家庭科学習内の「高齢者の生活と福祉」の分野の授業の一環として行われる約90分の中で、施設見学とともに、事前に体験したい実習の希望をふまえ、グループごとに体験学習に入る。車椅子、シーツ交換、体操、ミュージックセラピー、調理場、グループホーム介護体験と6グループに分かれて、それぞれの担当者により、直接に高齢者とコミュニケーションをとりながら、体験学習を行う。

活動効果

実際の福祉現場で、専門職から直接指導を受ける体験等は、若い学生の皆様、一人ひとりにこれから迎える超高齢社会で自分はどうか生きるかということを実践的に考えることができるきっかけづくりとして心に響く大きな成果をあげているのではないかと考える。

なお、限られた時間の中で行う体験は、学年全体として共有できるよう、体験後は、各学校にてグループ発表会も行われている。自分が体験できなかった内容について把握し、他者の意見等を聞くことができるこの場は、高齢者の生活や福祉に関し、より視野が広がり、考えが深まっているのではないかと大きく期待している。

今後の課題

今後も、様々な分野の教育機関と連携を図りながら、今後を担うより多くの若い世代の方々に生きた学習教育の場として提供したいと考える。また、受け入れは、職員一人ひとりが福祉を目指した時の気持ち、福祉に携わった時の初心にかえる、自分自身を見つめなおす良いきっかけだと考えている。

今後は受け入れるスタッフとして、よりよい学習時間を演出できるように、日々の業務ではない、教える難しさを感じていることをふまえ、他者に何かを教えるという機会に躊躇することなく、誰でも対応できるように整備したいと考える。

主な経費や財源の内訳（年間あたり）

<主な経費>	<概算額>
イベント・施設訪問送迎車両燃料代	¥23,011
<合計>	¥23,011

<主な財源>	<概算額>
その他の収入 (実習費)	¥1,544,330
<合計>	¥1,544,330

